

平成 27 年 10 月 20 日（火） 南横山校区 タウンミーティング 参加者 52 名

【市長との意見交換】

市民： 過疎について、南横山地区は市内 1 番の高齢化で、また少子化が進み、小学校の生徒も 70 人のうち地元の子供たちのほうが少ないという状況であり、今年 3 月末には南横山保育園が横山保育園との合併で閉所となった。

近年、南横山校区については、戸数も減少し、父鬼で 160 件、大野で 100 件、側川で 20 件。このままでいくと限界集落という不名誉な冠が付くのではと危惧しており、地元としても何とか知恵を出し合って、地元振興を含め対策が必要と考えている。地元密着型の振興プランを南横山地区の住民と、長期にわたりチームを作って、過疎を少しでも阻止するようにやっていきたいと考えている。そういう中で市長のお考えをいただきたい。

市長： 南横山校区は高齢化も進んでいる。小学校については、いろんな手立てとして特認校も実施している。子どもの人数の比率が下がっているが、南部地域というのは非常にポテンシャルのある地域ではないかと私は思っている。

国では地方創生を進めており、地方創生の交付金というのがあり、来年度は 2 兆か 3 兆円位ある。交付税もらっているが、その中で地方行政は知恵を絞って街づくりしていかなければならない。

地方創生の一番肝心なところは雇用問題。仕事のないところに人は住まない。なぜ南横山の若い人たちが中央、いぶき野、はつが野に出ていくかというと、仕事するのに便利だからで雇用があれば地域に定住する人が増えてくる。テクノステージは南部に場所的にも近い。コストコ等には車で通え、雇用が 1 万人近い。コストコ、ららぽーと、トリヴェール西部地域、産業技術総合研究所、いろいろな工場もあり、これをつなげたい。

また 170 号線の 4 車線化を進めて頂いているので、その沿道の活用をしたい。廃車、屑鉄の置場になっていて、地域の方々が歓迎するような使い方になっていない。市街化調整区域であるが、工場も誘致できるような、そんな仕組み作りをしようと大阪府に話をあげており、やっと話が返ってきた。大阪は今、中小企業が東大阪・八尾から、奈良和歌山にしか工場用地がないということで、工場を拡張したいとき他府県に行かないといけない。市街化調整区域に整備予算をまわそうということで、今 170 号線沿線でも工業団地、工場立地できるような仕組みを作るために話を進めている。

また、市街化調整区域でも来年 4 月から、家を建てられるようになる。横山地域では、条件があるが、幹線道路沿道の指定されたところであれば、他所から移り住んできた人でも家を建てることができるようになる。南横山地域と南松尾地域は 50 戸以上の家のつながりがあればその隣に家を新築できる。そういう制度が来年 4 月から実施される。市街化調整地域でも他の地域から移り住んでこられる。

移り住んでくるといっても、いろんな基盤整理ができていないと不便なので、下水道の工事も進めている。仏並に水道の受配水場もあと1年くらいで完成する。13億円位かけている。そういった地域整備も進めている。

南横山地区でもいろいろご協力もいただいた農業集落排水については、浄化槽に費用がかかりすぎるのでできなかったが、合併浄化槽のPFI事業で、トイレの水洗化も図って、生活レベルをあげていけるよう進めている。

なかなか高齢化、少子化は全国的な傾向なので、すぐにはいかないが、南横山地域に定住できるような条件はこれからもしていきたい。地元の産業も活性化し、雇用を増えればと、農地バンクも考えている。空き家バンクも考えているが、貸し手が貸さないというハードルがある。隣の家にも貸さない、家貸すというのも抵抗があり、知らない人に貸すというときにさらに慎重になるので、そこに行政が介入して良い方に借りていただけたらとも考えている。

市民： 保育園の跡地を活用の予定は。

市： 今のところは、市役所の中でも検討中だが、教育委員会としては南横山小学校と合わせて活用する方向で検討していると聞いている。

市民： 今の件について、校区として、小学校のPTAと一緒に要望書を出している。担当の部署に文書を持って知らせしてほしいとお願ひしている。

市民： 駐車場にしていきたい。今は地元以外の人が多いのでイベントのときに車を止めるところがない。

市： 災害時の避難場所の件について、6月20日に南部リージョンセンターまで夜の避難訓練をした。その結果、雷風雨のさなかに父鬼から4キロ5キロ離れたリージョンセンターに避難するのは、健常者はもとより、高齢者、障がい者は大変なこと。交通事情、立地条件もあり、大野、側川はまだ近いが、父鬼に関してはそこへ行くまでに2次災害が発生するかもしれない。

当初、南横山小学校が災害指定避難場所に指定されていたが、今回から除外されて、学校が危ないとなった。先人が、この地域で学校が一番安全な場所だとしてきた。いまだかつて大きな事故や災害はなかったもので、とりあえず今、学校が危ないからリージョンセンターへ避難しなさいではなく、学校が危なければ、行政の方で安全対策を講じてほしい。

特に危ないのは、プールの上と体育館の上。傾斜的には厳しいところがあるが、校舎においては全く安全であると思う。この地区はだんだん少子化で、学校の存亡にかかわる状況中で、特任校というシステムを図り、定着化しつつある中、小学校が危ないとなると、通わせる親が通わせるわけにいかないという状況にもなりかねない。その点も踏まえて安全策を早急にしてほしい。

もう1点、この前の災害訓練のとき、防災無線が2か所、父鬼消防団と小学校にあり、この前市長も参加されて、感じられたと思うが、父鬼の立地条件が悪い中で

は、細長い谷あいでも全く聞こえないというところも何件かある。大雨大風の中で、身構えて聞こうとすればなんとか聞けるが、風や大雨の中で場所によっては全く聞こえない状況であり、防災無線増設を願いたい。

市長： 南横山小学校が危険ということだが、耐震化はもちろんしており、建物は堅牢だが、そういう問題よりも国が地域を土砂災害警戒区域に指定した。建物をいくら頑丈にしてもそこは指定区域であり、避難所にはできない。そのため南部リージョンにいかなければいけない。南横山はこれからも耐震化して、施設は堅牢にしていく。

防災については、防災無線は今までなかった。市内で防災無線を75か所、小学校、消防に設置している。たくさんあればいいがかなりの経費がいる。それを徐々に増やしていきたいと思っている。防災無線でも耳がご不自由で聞こえない方もいるのでFAXやエリアメールを活用して、情報はできるだけ迅速に正確に出すように努めている。地域整備にたくさん予算があるという状況ではないので、少しずつ進めていく。

市民： 以前も要望書でお願いしたが、側川を出たところに3mの塀があり、何とかできないかと聞いてもらったが、条例ではどうしようもないとの話であった。建築開発指導室も5m以上のものは指導できるが3mではどうしようもないと。先日、防災訓練を実施したが、側川の入口になるので、山が崩れ道をふさいだ場合に塀があるので避難できなくなる。地主にも言ったが、うちの土地に何しようが勝手やないかと、門前払いされた。市の条例でなくても防災防犯上そういう塀を作るということに納得いかない。

市長： 塀は民間のもので、我々はお願ひするしかない。それ以外に何か市民の安全を確保できる方策があれば、考えていきたいと思う。勝手にはできないので行政的にお願いや協力要請をする。

市民： 側川の避難場所の件だが、町会館はどうしても裏の山が危ないということで避難場所指定されてない。現状で避難勧告が出たら、個々の家でお願ひするのが現状。先に情報仕入れて、息子や娘のところへ避難するという方が何人かいる。塀の土地は空地になっているので市が借り受けて、一時的な避難場所として、利用できる方法も講じられるのではないかと思う。これからの課題として、相談したい。

市長： 塀の土地は借りるというより、災害時の協力要請を結ぶことも可能かもしれない。災害に強い街とは、自助共助がきちりしているところ。共助は行政の役割だが、災害で助かった方の9割は家族や近隣の人なので、自助が災害時一番重要だと思う。

先日、宮城県の知事にお会いして、災害後の復興の様子を見たが、宮城県でも東日本大震災に対応できるだけの防潮堤は作れない。どうするかというと、災害時には逃げるということ。事前に対応し自分の身を守っていくということを一番重要視している。市も地域の防災力を高めていくということに対しての支援はしっかりとしていきたい。

市民： お願いですが、携帯各会社のアンテナを増やしてもらいたい。家の中でエリアメールが届かない。届いても岸和田市のエリアメールが届いたりする。

市： 既存のアンテナが立っており、電波は通じている。槇尾山など通じていないところもあるので、現在、携帯会社と調整しているので、この辺は通じているはずだが、一度確認させていただく。

市長： 小川地区には届いてないので検討中である。

市： 南横山診療所についてということで、今年の3月になって診療所をなくしたいという話が突然出てきた。4月から実施するという話で、何回か来年度への話し合いもしたが進展もない。あれから話し合いをしていないが、どうしても南横山は診療所しか頼りがない。病院から迎えに来てもらうなどの方法でやっている方がほとんどで、自分でいくにもバスもない。

和泉市立病院は、駅前からバスが出ているが、南横山からはバスも出てないので行きたくても行けない。車もない人もいるので診療所がなくなるとなったら非常に困る。一人でも診療所で見てもらいたいという人がいる以上は、それなりに予算措置をしていただきたい。でないと本当にこの地域はなくなる。健康づくり推進室で、それなりに対応してほしい。

市長： 一人でも利用者がいれば置くべきではないかということだが、あまりにも利用が少ないと、費用対効果を考える。市の方はたかさんの予算があるわけではない。実情に応じて、高齢者をバスで送迎したり、対応できるところは対応したい。診療を毎月2回にして、送迎で月3回にしている、様子を見ながら送迎させていただいている。利用者があまりに少ないと、市も考えざるを得ない。しかし地域に医療機関がないということでは不便と思うので、今後も対策は考えて、医療を提供できるように考えていく。

バスに関しては、徳洲会に委託している市立病院のバスは駅だけをつなぐという約束で、和泉中央、光明池、北信太、信太山、和泉府中駅で運行している。横山や南横山からも要望もいただいているが、医師会との話し合いもあり、駅との間の送迎バスということで運行している。医師会にはいろいろと協力して頂いているので、あまりに多方面からバスを運行して、地域の診療所の患者さんを取ることで困るので、各診療所での連携をお願いしている。

市民： 今年の3月の話では患者が減ったからということで、こうなると。患者が増えないとあかんということであれば、病人を増やせということになる。赤字なので減らす。赤字であろうが、病院で診て欲しいという人がいる限りは来てもらいたい。免許がない、車がないという人もいる。送迎は時間通りにいかないと乗れない。診療所のように仮に3時から4時の間と、1時間の中ならその間に行ける。送迎では段取りがつきにくく、時間に遅れる人もいる。

バスもなくなる、診療所もない、下水道も完備していないでは人口が減るはずだ。

市役所の建て替えもいいが、中央に移転したら 20 億近く事業費がかかる。中央に移転すると 15 分で行けるが、今も 30 分なので 15 分しか差がない。役所が中央に来たからといって特別にプラスになることもない。我々は何十年も府中へ行っており、30 分はそんなに苦勞ではない。それより南横山地域に対する市長の政策をもう少し問題を提起して頂いたらいいと思う。協力をお願いしたい。

市長： 決して南横山をほったらかしにしているわけではなく、そういうことがないように施策をしている。

市民： 国道 480 号バイパス道路がもたらす地元振興の弊害の部分。あと 2 年か 2 年半でトンネルが開通すると今の鍋谷峠への道が、あまり人も車も通らなくなる。写真の通りの不法投棄がより一層ひどくなっていく。下に我々が飲む上水道の水源地がある。いろんな有機物等危険なものが川にたれ流されているかもしれない。トンネル開通によって、市に移管された場合の対策等、構想あれば聞かせてほしい。

先日、南横山地域で防犯カメラ 5 台が設置され、市から補助頂いて有効活用している。その矢先、鍋谷峠の中間で 4 トントラックの不法投棄が見られた。最寄りの駐在所に町会が防犯カメラを有効に使いたいので、どの範囲まで介入できるのか警察に聞いたが、町会は見られないということだった。どの辺まで活用できるのか、何らかの形で有効利用したい。

市： そのデータについて警察からの請求はあると思うが、データは町会のものなので、使うのは問題ないと思う。犯罪行為の特定のために警察がデータを抜いたというなら、捜査の関係等もあり警察に教えてもらえないということもある。

市民： 防犯カメラの有効利用のためのマニュアル、指針というものを決めてもらえたら、より一層有効に使えるのではないかと思う。

市民： 町の中の境界のことで個人のもめごとがあった時に町会の方で双方が話し合いをして、表に出ずに解決できるよう進めていたが、一方で個人からの依頼により市会議員や市に顔の利く人が市に相談に行ったことがあった。市に相談に行くことはかまわないが、市の担当の人から、町会に情報提供していただきたい。

市： 具体的な事例はわからないが、いろんなパターン、ケースによって対応は違うと思う。

市民： 住民が町会を通さずに役所に直接話を持って行ったとしても聞いていただければいいが、その内容を個人名は出さないで、こういう案件で住民から申し入れがあったので、こういう返答をした、ということを情報提供いただきたい。

市長： 市としても地域の方々がうまくいっていただきたいと思っている。ただ情報を提供することで余計にもめる場合もあるので、慎重に対応したい。